

ニューソフィア

New Sophia

81号

[vol.22-0]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



Greeting

理事長・学長 年頭挨拶

2

Featuring News

口腔医学シンポジウム 学長・学部長会議
福岡歯科大学 学会総会

3

Q-Links主催 Q-conference 2013

3

Campus News

福岡医療短期大学公開講座

4

特別養護老人ホームサンシャインプラザ 開設10周年記念式典

4

第9回 3大学合同シンポジウム

4

健康まるごと福岡学園

5

BIZCOLIとのコラボレーションセミナー／学芸部病院展示

5

8大学連携FD研修会／口腔医療センター開院2周年記念報告会

6

教室講義録画システム導入／オーポロシア医療チームが来学／Shah教授が来学

6

People

谷口祐介先生 ポスター賞を受賞／平成25年度文部科学省医学教育等関係業務功労者
福岡医療短期大学 平成25年度1年次特別奨学生／昇任教員紹介

7 7

Events

献体者慰霊祭／実験動物慰霊祭

8

サンシャインシテイクリスマス忘年会

お口と体の無料相談／第6学年学生激励会

8

◆ From Alumni

同窓会だよ

9

◆ Hi! From Clinic

医療法人 英会 外科眼科 何医院

10

歯科診療部(熊本市南区)

かぎやまデンタルクリニック(高知県香美市)

10

◆ Students & Parents

学生&保護者様からのメッセージ

11

◆ Information

平成26年度入試日程

12

本学学生の作品が地下鉄駅に

12

年頭挨拶



理事長 田中 健蔵

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が福岡学園にとって、また本学の教職員、学生諸君そして同窓生の皆様にとって平和で良き年になることを心から念じて止みません。

昨年はアベノミクス効果により緩やかながらも景気は回復基調を取り戻し、また1964年以来2度目となる2020年東京オリンピック誘致も成功して、日本経済に明るい兆しが見え始めた年であったように思います。しかし残念なことに、少子化に加え、高齢化の進行は著しく、持続可能で活力ある社会を実現するために解決すべき多くの課題に直面しております。教育こそが、人生を豊かにし、社会発展の基盤となるものであるとの見地から「自立・協働・創造」をキーワードに教育再生に向けた施策が実施されているところです。

本学園としては、引き続き、口腔医学の理念に基づいた教育を実践し、高度かつ先進的な専門知識と技術、そして豊かな人間性を有した高度専門職業人の育成に努めるとともに、生涯を通して学ぶことが出来る学習機会を提供して、個々の課題達成や自己実現のためのキャリアアップ支援を行うほか、地域連携センターを拠点に、口腔の健康の保持増進を通して地域の発展、活力あるコミュニティの形成に貢献したいと考えております。

昨年は創立50周年に向けた起点的年として、「口腔歯学部」「口腔歯学科」への名称変更をはじめ、単位制から学年制への転換、地域連携センターの設置、認証評価受審、医科歯科総合病院の病院機能評価受審等、様々な大学改革に取り組んで参りました。本年はこれらの改革を踏まえ、本学の個性や特色を最大限に発揮する飛躍の年として、以下に述べます10項目を、全学を挙げて取り組む本年の重点項目として努力したいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

(口腔医学の確立・育成)

1. 「口腔医学」の理念を、関係諸団体、大学、社会等に理解していただくよう努める。関連教育カリキュラムの充実を図るとともに、他大学、医療団体等との連携体制を強化する。

(教育の質の向上)

2. 教育、研究、医療に適切に対応できる弾力的な教員組織の構築を図る。ロボット実習や医科系実習を充実させ、臨床実習の質向上に努める。新たな教育評価制度の導入に取り組む。短期大学基準協会の第三者評価受審の対応に万全を期する。

(優秀な学生の確保)

3. 意欲と能力ある目的意識の明確な学生確保に向けて、多様な選

抜方法を検討・実施する。募集活動の効率化を推進する。学生の経済的支援の拡充等、魅力ある大学づくりに努める。

(国家試験対策等)

4. 歯科医師国家試験における新卒者合格率の上位定着、共用試験全員合格を目指す。また歯科衛生士国家試験、介護福祉士卒業時共通試験について全員合格を達成する。

(大学院教育および研究の質の向上)

5. 入学定員確保を目指すとともに、社会人の受入体制を整備する。国内外の先進的研究施設への派遣や共同研究を推進する。各研究センターの特性を生かした多領域での研究強化を図る。科研費のほか、学術研究振興基金や厚労省研究助成等の獲得に努める。

(安全で良質な医療の提供)

6. 新医療情報システムを導入し、診療の円滑化と経営強化を図り、診療科ごとの目標達成に努める。口腔医療センターの充実を図るとともに、改築計画に基づき新病院建設を推進する。

(地域の保健・福祉への貢献)

7. 介護老人保健施設と介護老人福祉施設は、地域の保健・福祉のモデル施設としてサービス等の充実に努め、入所者の確保を図る。学内外の教育研究機関等の教育、研究、研修の場として充実させる。

(社会連携・国際連携)

8. 地域連携センターを核として、自治体、医療団体および地域との連携を構築し、地域医療人育成と健康長寿社会の実現を目指す。欧米大学等との交流協定締結を促進する。

(財務・人事)

9. 教育研究の振興、地域連携活動の充実のため、自己資金の確保に努める。経常費補助金および寄附金の増収を目指す。評価基準の見直し等、人事考課制度の改善・充実を図る。

(安全管理・法令遵守)

10. 各種法令や職業倫理を正しく理解し、社会から信頼・共感の得られる行動を実践する。快適・安全で環境に配慮したキャンパス整備を図る。秩序と活力ある職場づくりに努める。

以上を今年の重点項目として、法人・教職員が一九となって目的達成に向けて邁進したいと思っております。また一学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校「地域の歯科医療・医科医療への貢献」「国際レベルでの研究と国際交流の推進」を目指したいと思っております。

新年を迎え、皆様のますますのご健勝と学園の一層の発展を祈念して、新年の挨拶といたします。どうぞ、元気で頑張りますよ。



学長 北村 憲司

福岡学園教職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族や親しい皆様と共に、平成二十六年の新しい年を迎えられ、この一年の計を建てられたことと思います。

お一人お一人の夢はそれぞれ違うと思いますが、その夢に向かって進む意欲は、集まってより大きな力となり、より豊かな学園を創造する活力となっていきます。本学園中期構想に基づく事業計画、特に重点項目を、それぞれの機関、それぞれの部署、それぞれの担当者が責任を持って、その達成に向けて邁進されることを期待しています。

福岡歯科大学にあつては、二つの認証機関による審査を終え、また、附属病院にあつては病院機能評価を終え、それぞれ新しい認証期間の開始の年になります。福岡医療短期大学においては、本年が認証評価受審の年です。認証評価は現場の負担を増すだけだという否定的な意見もありますが、日常の業務を堅実に実行していく中で、質の向上を図り、その結果をまとめて評価を受けるといふ、仕組みが作られることによつて、負担は最小限のものになります。自己点検評価と改善報告、部局での年度目標の設定と達成度の検証等、学園として徐々にPDCAサイクルが動き始め、日常業務における質向上が実感として受けられるようになりました。人事考課・授業評価を始め、学園としての取組全般について、こうしたPDCAサイクルを明確にすることで、効果的な組織機能が発揮できるものと思っております。

福岡学園は規模が小さく、教職員それぞれが分担すべき責任と義務は大きいと思っておりますが、お互いの信頼の下に、協力して行動できる特徴を生かした行動によつて、そうした困難を克服して欲しいと思っております。教職協働のもと、それぞれの役割を、責任を持って遂行し、更に強い社会からの信頼を得られるよう、努力したいと思っております。

ことは甲午(きのえうま)の年、六十年周期の後半開始の年である三十二年目に当たります。甲は「堅い殻」は「杵」を意味するそうです。甲午は堅い殻に覆われたものをつき崩し、柔らかにする時を意味する年であると言えます。歯科医療・介護医療を取り巻く環境は未だ厳しい状況にありますが、本学園によつて、今年も、一人一人の努力によつて、堅く閉ざされていた状況が改善される、新たな一年となることを期待しています。皆様におかれましては、それぞれの立場で福岡学園の目標に貢献できる目標を建て、その目標に向かって邁進していただきたいと思っております。

新たな一年を迎え、本学がこれまで強く発信してきました「口腔医学」を、更に発展させ、「口腔の健康を通して全身の健康を守る」歯科医師を一人でも多く育てるために、皆様の一人の創意と努力をお願い致します。

終わりにあたりまして、皆様お一人お一人の夢がこの一年で着実に実現に向かい、本年が皆様にとって充実した良い年になりますことを心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶に代えてさせていただきます。

福岡学園は規模が小さく、教職員それぞれが分担すべき責任と義務は大きいと思っておりますが、お互いの信頼の下に、協力して行動できる特徴を生かした行動によつて、そうした困難を克服して欲しいと思っております。教職協働のもと、それぞれの役割を、責任を持って遂行し、更に強い社会からの信頼を得られるよう、努力したいと思っております。

ことは甲午(きのえうま)の年、六十年周期の後半開始の年である三十二年目に当たります。甲は「堅い殻」は「杵」を意味するそうです。甲午は堅い殻に覆われたものをつき崩し、柔らかにする時を意味する年であると言えます。歯科医療・介護医療を取り巻く環境は未だ厳しい状況にありますが、本学園によつて、今年も、一人一人の努力によつて、堅く閉ざされていた状況が改善される、新たな一年となることを期待しています。皆様におかれましては、それぞれの立場で福岡学園の目標に貢献できる目標を建て、その目標に向かって邁進していただきたいと思っております。

口腔医学シンポジウム 学長・学部長会議

1 月12日(日)福岡歯科大学本館9階講堂において、口腔医学シンポジウム「これからの医療における口腔ケアの役割」を開催しました。

口腔ケアの観点から専門の先生方が最新の知見を紹介し、全身医療における口腔ケアの重要性や口腔ケア教育のあり方等について討論を行いました。当日は多くの方にご来場いただき、口腔医学に対する関心の高さが感じられました。また、シンポジウムに先駆けて「第9回連携大学学長・学部長会議および戦略的連携事業実施担当者会議合同会議」を本館2階の第2会議室にて開催し、次年度の事業計画等について協議を行いました。

戦略的連携事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」は平成20年度に採択された文部科学省助成の戦略的連携支援事業を母体とし、「口腔医学」創設と医学・歯学教育体制の再考、次代の患者ニーズ・社会ニーズに対応する医療人の育成を目的として、福岡歯科大学を代表校とする8大学が連携し、活動を行っています。



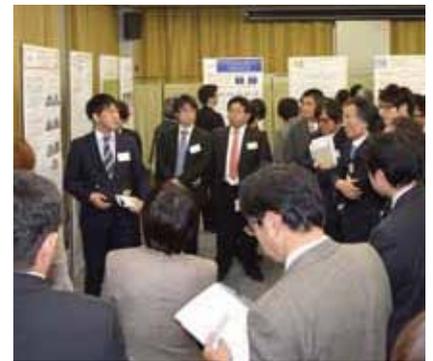
口腔医学シンポジウム



学長・学部長会議

福岡歯科大学 学会総会

12月15日、本学において第40回福岡歯科大学学会総会(会長:佐藤博信 冠橋義歯学分野教授)が開催され、学内外から292名の参加がありました。一般口演発表、ポスター発表に引き続き行われたシンポジウムでは「オーラルアプライアンスを機能的観点から考察する」をテーマに講演が行われました。また、講演後には演者によるディスカッションが行われ、スポーツから睡眠治療まで幅広く使用されるオーラルアプライアンスについて、専門家による活発な意見交換が行われました。なお、学会総会における学会賞には野口哲司氏(高齢者歯科学分野 大学院2年)と永沼香織氏(口腔外科学分野 大学院3年)が選ばれました。



- 講演1** **オーラルアプライアンスの歴史と現状**
福岡歯科大学冠橋義歯学分野 教授 《佐藤博信 先生》
- 講演2** **医科歯科連携による睡眠時無呼吸症のオーラルアプライアンス治療**
睡眠科学研究所江崎歯科内科医院 院長(8期生) 《江崎和久 先生》
- 講演3** **スポーツとオーラルアプライアンス**
スミヨシ歯科口腔外科こども歯科 院長(11期生) 《住吉周平 先生》
- 講演4** **唇顎口蓋裂患者の出生時に行う口蓋床を用いた術前顎矯正治療**
福岡歯科大学矯正歯科学分野 講師(19期生) 《玉置幸雄 先生》
- 講演5** **舌接触補助床の活用と機能的効果**
大阪大学歯学研究所顎口腔機能再建学講座 准教授 《小野高裕 先生》

Q-Links(九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク)主催 Q-conference2013(活動報告会)

11月2日、九州大学においてQ-Links主催のQ-conference2013(活動報告会)が開催されました。本学もポスターセッションで参加し、本学における就業情報通信システムと8大学連携事業についてPRしました。

- 本学ポスターセッションの発表タイトル**
- (1) 臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化
 - (2) 8大学連携による口腔ケア、災害口腔医学カリキュラムの作成について



公開講座 福岡医療短期大学公開講座

10月6日、福岡医療短期大学307教室において、福岡医療短期大学公開講座『「口から食べる」を支援する…生活の質を上げる多職種連携…』を開催しました。康和会理事である廣瀬知二先生による基調講演に始まり、社会福祉法人学会が運営する介護老人福祉施設「サンシャインプラザ」での事例、福岡医療短期大学における教育現場での対応などを含む多職種連携リレー報告などが行われました。医師や歯科医師のほか、介護福祉士や鍼灸師、一般の方も多く来場され、学内外から149名の参加がありました。



記念式典 特別養護老人ホームサンシャインプラザ 開設10周年記念式典

10月12日、特別養護老人ホームサンシャインプラザ開設10周年記念式典が行われました。田中理事長の挨拶に始まり、福岡音楽学院附属幼稚園園児による「歌とお遊戯」や祝吟「宝船」などが披露されました。

無事10周年を迎えることが出来たことを関係者の皆様へ感謝するとともに、今後も更なる地域貢献へ向けて取り組んでまいります。



シンポジウム 第9回 3大学合同シンポジウム

11月3日、福岡大学病院・福大メディカルホールにおいて第9回地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、地下鉄七隈線沿線に所在する中村学園大学、福岡大学、本学の3大学の共催で、市民の健康づくりを目指して実施しており、今回で第9回目の開催を迎えました。今年度は「高齢者社会と健康—快適な生活を送るために—」というメインテーマのもと、各大学の講師からそれぞれの専門分野における講演があり、本学からは冠橋義歯学分野の松浦准教授が「お口の老化とうまく付き合うために—お口の老化の個人差を理解する—」と題し講演されました。当日は地域の方や大学関係者を中心に204名の方々が参加され、ご自身やご家族への参考にと熱心に講演を聞き入っていました。



テーマ 高齢化社会と健康—快適な生活を送るために—

講演1 「お口の老化とうまく付き合うために—お口の老化の個人差を理解する—」
福岡歯科大学 咬合修復学講座 冠橋義歯学分野 松浦尚志 准教授

講演2 「骨粗鬆症の正しい理解と予防—食事・運動・日光浴—」
中村学園大学 栄養科学部 津田博子 教授

講演3 「認知症の現状と予防について」
福岡大学病院 神経内科・健康管理科 合馬慎二 助教

たくさんのご来場ありがとうございました!

健康まるごと福岡学園

10月26日、27日の2日間、福岡歯科大学キャンパスにおいて福岡学園の総合イベント「健康まるごと福岡学園」が開催されました。2日間とも天気にも恵まれ、近隣の方々をはじめとする多くの来場者で賑わいました。

学園祭「田の歯科祭」

正門北側駐車場を会場として第39回「田の歯科祭」が行われました。ステージでは「スギちゃん」「かもめんたる」のお笑いライブをはじめ、地域の子どもたちによるダンスや太鼓演奏、学生たちのカラオケ大会など楽しいイベントで盛り上がりました。模擬店も様々な内容で出店しており、大変賑わいました。



からだの科学展

本館1階学生ホールおよび学生食堂において「見る・聞く・触れるからだの不思議」をテーマに開催しました。例年近隣の子どもたちを中心に人気のイベントとなっており、約1500人の来場者で賑わいました。口腔粘膜の細胞からDNAを取り出してみる実験等、子どもだけでなく大人まで楽しくからだの不思議を体験しました。



医科ミニ講座

病院1階受付ホールにおいて、医科の先生方による講演を行いました。26日は小児科、外科、内科、27日は心療内科、整形外科、眼科の先生方によって身近な病気等のテーマが取り上げられました。



歯科無料相談

27日に歯科の専門医による歯科無料相談を行い、むし歯や歯周病、矯正等、子どもから大人まで70人を超える相談者が来場しました。その約半数の方が医科歯科総合病院への来院経験がない方々であり、イベントを通して地域の方々へ病院を知ってもらう良い機会となりました。



講演会

27日に本館5階501講義室において、満留昭久先生(NPO法人子どもの村福岡理事長)による「親子の絆～子どもの村福岡の活動から学んだこと～」と題した講演会が行われました。改めて親子の絆の大切さを知る内容となっており、聴講者も真剣に耳を傾けていました。



短大企画

本館1階学生食堂において、「口から始める介護予防」をテーマに、歯科衛生学科では、歯周病ケアや歯にまつわるクイズ、保健福祉学科では高齢者の介護体験等を行い、約600人の来場者が訪れました。



介護施設見学・介護無料相談

老人保健施設サンシャインシティおよび老人福祉施設サンシャインプラザにおいて、施設を開放しての施設見学と介護職員による介護相談が行われました。併せて、利用者の方々作品も展示されました。



学芸部病院展示

10月7日から12日までの6日間、本学医科歯科総合病院の1階受付近くに特別スペースが設けられ、学芸部の陶芸作品が展示されました。



BIZCOLIとのコラボレーションセミナー

12月6日、本学に9月に設置された地域連携センターが企画するBIZCOLI(公益財団法人九州経済調査協会)とのコラボレーションセミナーが、福岡市中央区にある電気ビル「共創館」で開催されました。ビジネスマン等一般の方を対象に、本学教授陣による歯周病や口臭ケア、インプラント等に関する講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。



研修会 8大学連携FD研修会

11月27日、福岡歯科大学8階第3会議室において、テレビ会議システムを使用した戦略的8大学連携事業平成25年度FDワークショップが開催されました。

「低学年(1,2年生)教育の問題点と口腔医学」をテーマとした今回の研修会には、連携8大学から26人の参加があり、初年次教育の特色あるプログラムや各大学における問題点に関するプレゼンテーションが行われ、教育の改善充実に向けて活発な意見交換が行われました。



報告会 口腔医療センター開院2周年記念報告会

12月14日、口腔医療センターの開院2周年を記念した報告会が同センターにて開催されました。報告会では古賀センター長をはじめとするスタッフ6名がそれぞれの業務における現状や課題、今後の展望等について報告を行いました。同センターは大学の診療を提供できる場として、また近隣の歯科医療機関との連携や診療の支援、情報発信、あるいは卒後研修の場として活用していただけるよう、平成23年12月に博多駅近くに開院しました。一昨年と比べ、平均来院者数が約50%増えており、その存在が認知されてきたことがうかがえます。



導入 教室講義録画システム導入

この度ICT活用推進事業補助金の内定を受けて、教室講義録画システムが大学本館9階901講義室と8階801講義室に導入されました。これによって学生は、学内LANとWi-Fi環境下で、コンピュータまたはiPad等を用いた予習、復習等の反復学習が可能となり、更なる学習効果が期待できるようになります。また、遅刻者に対して学習の機会を確保するために、501・601・701講義室の各講義室に画像伝送装置を設置し、講義内容を閲覧できるようになりました。



来学

ブリティッシュコロンビア大学から Shah教授が来学

 10月27日から11月2日までの7日間、国際交流の一環として、協定締結校であるカナダのブリティッシュコロンビア大学からShah教授が本学を訪問しました。滞在中は大学院生への特別講義をはじめ、2~5学年の学生へ講義を行い、多くの学生、教職員と交流を深めました。



来学

オーポラロシア歯科、整形外科医療チームが来学

 10月17日、オーポラロシア歯科、整形外科医療チームが福岡歯科大学、医科歯科総合病院を訪れました。病院では大診療室やCAD・CAM等を見学、また、大学では各研究センター等を訪問し、日露間における医療の共通点や違いについての意見交換が行われました。



受賞

谷口祐介先生

ICOI World Congress XXXにおいてポスター賞を受賞

ICOI = International Congress of Oral Implantologists

本学大学院に所属する谷口祐介先生（福岡歯科大学卒）が、ICOI World Congress XXX（2013年10月3～5日、イスタンブール、トルコ共和国）においてポスター賞を受賞しました。

演題は「Development of a new zirconia implant with rough surface produced by laser treatment : assessment of osseointegration strength *in vivo* and osteoblastic differentiation *in vitro*.」で、次世代のインプラント体材料として注目されているジルコニアセラミックスの表面を粗面に加工することで、表面性状が骨芽細胞様細胞に与える影響についての発表でした。

発表の後は1時間の討論が行われ、様々な国の研究者や企業関係者から多くの質問を受けました。



ポスター発表の会場にて



表彰式にて

表彰式

平成25年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者

11月22日、ホテルフロラシオン青山（東京）にて文部科学省による平成25年度医学教育等関係業務功労者の表彰式が行われ、本学生体構造学講座の谷勝典主任が受賞しました。谷主任は親子2代にわたり名誉ある受賞となりました。文部科学大臣は毎年、医学又は歯学に関する教育・研究もしくは患者診療等の補助的業務に関し、顕著な功労のあった者を表彰しています。



福岡医療短期大学 平成25年度1年次特別奨学生

平成25年度1年次特別奨学生に次の4名が選ばれ、11月5日に福岡医療短期大学会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、当該年度の授業料の半額が免除されます。



歯科衛生学科
住永 梨乃



歯科衛生学科
向井 美由紀



歯科衛生学科
生嶋 絹代



保健福祉学科
前田 富美代

昇任

口腔 インプラント学分野

講師 加倉 加恵



今まで、口腔インプラント治療での臨床、臨床実習での学生教育、新しいインプラントの開発に向けた研究において当分野に携わってきました。これからも「口腔医学」の理念に沿った口腔インプラント学の臨床、研究、教育およびインプラント学分野の発展に貢献出来るよう頑張っております。

〈略歴〉福岡歯科大学歯学部卒。同大学院歯学研究科修了。福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野助教を経て、平成26年1月1日、福岡歯科大学講師に昇任。博士（歯学）。広島県出身。

相談会 **お口と体の無料相談**

10月13日、早良区の商店街(西新、中西、高取)において行われた勝鷹夢まつりに本学から「お口と体の無料相談」のブースを出展しました。1日だけの開催でしたが、151名の方が相談に訪れ大盛況のうちに終了しました。



クリスマス・忘年会 **サンシャインシティクリスマス・忘年会**

12月15日、介護老人保健施設サンシャインシティにて「クリスマス・忘年会」が開催されました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者や利用者、ご家族、職員ら共々大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



激励会 **第6学年学生激励会**

11月27日、学生食堂にて、口腔歯学部第6学年学生の激励会が執り行われました。水田常務理事による激励の言葉に続いて、北村大学長、下田父兄後援会長、武井同窓会副会長より応援メッセージを頂きました。また、今春に歯科医師国家試験に合格した先輩3名より、合格に向けて実践的なアドバイスがありました。学生を代表して肱川和彦さんがお礼の言葉を述べ、6年生は国家試験に向けて決意を新たにしました。



慰霊祭 **第38回献体者慰霊祭**

10月10日、萬行寺(博多区祇園町)において第38回献体者慰霊祭が執り行われました。ご遺族をはじめ、福岡歯科大学学生および学内外の関係者429名(学外176名、学内253名)が参列し、献体者の尊い御霊の冥福を祈りました。



慰霊祭 **第38回実験動物慰霊祭**

10月10日、体育館内において第38回実験動物慰霊祭が執り行われました。日頃、アニマルセンターを利用し実験等に携わる関係者が、実験動物の御霊に感謝するとともに、慰霊の儀に参列しました。



New Sophiaコラム「水の如し」

「常不輕菩薩」

通勤途中に雨雲に翳む飯盛山を眺めながら医療倫理とは何かと考えることがあります。しかし医療倫理という特別な倫理がある訳ではないでしょう。倫理は倫理だと思いう訳です。倫理の基本は、「人間には尊厳がある」ということだと思います。しかしこの概念はキリスト教がもとになっている。神が人間を創り給うた、従って人間やその理性には神の目的が宿っている、だ

から患者には尊厳がある、ということでしょうか。だからでしょうか、このような倫理は厳めしい法の支配下にあるような気がしてなりません。倫理の周囲に罰則が付きまとうのです。しかし本来倫理とは、法の出現以前から自然に発生したものでしょう。倫理の根本はもっと人間臭いはずで、そんな倫理観はないのだろうかと思ひます。そんな時、法華経の常不輕菩薩の話を読み

ました。常不輕菩薩は、「私はあなたを深く敬います。なぜならあなたは菩薩だからです。」と誰彼かまわず会う人ごとに礼拝して回ったそうです。そのため民衆から迫害されたことで有名です。つまり、人間には尊厳がある、なぜなら人間は菩薩(将来の仏様)だからです。患者は菩薩様である、と思えばいかがでしょうか。

四国(地区)連合高知県同窓会 平成25年度福岡歯科大学同窓会四国(地区)連合 高知県同窓会総会並びに学術講演会報告

高知県同窓会会長 苧坂 幸一 (3期生)

平 (成25年度福岡歯科大学同窓会四国(地区)連合高知県同窓会総会並びに学術講演会を、10月5日(土)ホテル松葉川温泉に於いて開催しましたので報告します。)

高知県同窓生は現在15名ですが、高知県の中央・東部・西部地区にそれぞれ5名ずつ在籍していることから、総会の開催場所を毎年3地区で順番に移動して開催しています。少しでも多くの同窓生の先生が出席できるようにと配慮したからです。今年は西地区での開催となりました。

高知県同窓会はまだ少数ではありませんが、全員同窓会に加入していただき、会費も全員一括納入の形をとることができています。小さい同窓会ゆえの利点だと思いが、これからも一致団結して高知県同窓会を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

総会議題

- ①平成24年度会計報告並びに承認を求むる件
- ②高知県歯科医師会代議員会報告
- ③高知県同窓会共済関連報告
- ④8月31日九州歯科大学同窓会高知県支部同窓会との懇親会報告
- ⑤5月25日(土)福岡歯科大学同窓会評議員会報告
- ⑥西地区の近況報告
- ⑦10月19日福岡歯科大学同窓会四国(地区)連合総会開催(徳島ワシントンホテル徳島県同窓会主催)への出席依頼の件
- ⑧11月27日(水)高知県同窓会中央地区臨時報告会並びに懇親会の件
- ⑨その他



学術講演会

1部 マイクロスコープを用いた根管内洗浄

講師 矢野 宗憲(9期生)

2部 アンテリアガイダンスと

ボスメリサポートの重要性

講師 岸本 省三(5期生)

学術講演会は4年に1度四国(地区)連合総会が高知県で開催される年には外部より、主に福岡大卒業生の先生を講師としてお招きして公開講座として開催しています。それが以外年にはできるだけ県内の同窓生のレベルアップを図る目的もあり、お互いが講師として学術講演会を開催するようにしています。今年も1部矢野先生、2部岸本先生には講演のみならず色々な準備等を含め、頑張ってください。

これからも、より充実した学術講演会が開催できるよう、努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

卒業生 NOW

教授就任

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

本田 公亮(5期生)



こんにちは。福岡歯科大学5期卒業生の本田です。私は昭和58年に母校を卒業し、その後出身地の兵庫県西宮市にある兵庫医科大学歯科口腔外科学講座に入室しました。そしてこの度同講座の教授に就任しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は現在大学の方で「顎関節外来」と「顎顔面補綴外来」の2つの専門外来を持ち、それに関連した研究や教育にも従事しております。また月に一度、母校出身の関根治浩先生が教授をされている島根大学歯科口腔外科学講座に嘱託講師として出向し、顎顔面補綴臨床の指導を行っています。ここには関根先生をはじめ、福歯大出身の先生方が多く在籍しておられ、一緒に仕事ができるのをいつも大変楽しみにしています。また母校の方ではOBの高橋先生、尾崎先生、城戸先生、古賀先生、升井先生、廣瀬先生らが教授として活躍されていることを拝聞し、いつも「俺も頑張ろう」の

素をもらっています。よく周りのOBの先生から「医科大学ってやっぱり白い巨塔があるの?」って聞かれます。「白い巨塔」はありませんが、医科大学特有の人事考課がなされ、歯科医師として、教員としての自己存在感を維持するのが大変なこともあります。しかし、島根大学の関根先生の御教室に何うと福歯大卒業の皆さんが服装を直し、いきいきと診療に携わっておられるのを見ます。そんな時に思わず「一度は大学病院で働いてみよう!」というキャッチフレーズを唱えたくります。

母校が開学40周年を迎えられたとのこと。福岡歯科大学の益々のご発展を祈願するとともに、これからも優秀な人材を育てられ、その中から多くの母校出身の教育指導者が輩出されることに心より期待しています。どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



同窓生からの手紙

同窓会学内支部の取り組み

鬼塚 得也(13期生)

本学口腔治療学講座歯周病学分野に在籍して22年が過ぎました。その間、多くの諸先輩・諸先生方に一方ならぬ御指導・御鞭撻を頂き、それらを参考に後輩への指導や講義を現在でも行ってまいります。指導は同窓会の重要性について話すことが多く、特に学内支部の活動と大学内での存在などについて話しております。そこで今回は、現在の学内支部の取り組みについてご紹介いたします。

私は、これまで高校野球部OB会以外の同窓会というものに全く関心がなく、参加した経験がありませんでした。ところが平成18年に宮口会長より同窓会理事、平成23年より学内支部副会長、本年度より学内支部会長に任命され、同窓会事業に参加してから同窓会の存在・重要性を痛感しました。今度は、それを後輩達に伝えていかなければならないと考えました。そ

のひとつに、一致団結するということがあります。学内支部は、それぞれの講座・分野内での団結はみられますが、支部としての団結力が若干薄い面がみられるため、学内支部会員227名の団結力と意識改革を急務として、まずは学内支部初の試みである学内支部懇親会を昨年11月19日に開催致しました。懇親会には、宮口会長をはじめとして常務理事5名を含めた総勢109名に参加して頂き、盛況のうちに閉会いたしました。

今後も変革していく大学に対応すべく、学内支部全員で切磋琢磨していく所存です。



一 医科診療所内の歯科部門として

相談が一番

何 陽介 (25期生 / 医療法人英会 外科・眼科 何医院 歯科診療部(熊本市南区))

福 岡歯科大学同窓生ならびに教職員の方、平素よりお世話になっております。25期生の何陽介と申します。昨年4月より、熊本市南区で既存の医科診療所(外科・眼科)に歯科を増設し、歯科部長として診療にあたっております。予想はしておりましたが、基礎疾患を有する歯科受診者が圧倒的に多く、外科や眼科と連携しながら診療を行う事が少なくありません。実際に糖尿病や高血圧、心筋梗塞などで外科に通院されておられた患者さんの口腔内の環境改善の為、抜歯や骨膜炎等の処置の依頼が非常に多くなっております。また、地域柄のためか超高齢者や介護を抱えておられる方も多数来院されます。

そのような患者さんは、特にメンタル面においても慎重な配慮が必須と痛感させられ、家内(精神科医)に指示を仰ぎながら包括的な診療は何か



歯科スタッフと

と模索する日々です。

開設の実質的な準備期間はわずか6ヶ月で、その間さまざまな問題に直面しました。無能な私一人では全く先に進まずに、よく振り出しに戻っていました。しかし一人で考え込まず、その都度それぞれの精通した先輩や同期に相談のつて頂きましたところ、トントンと進み始め、何とか期間内での開設を達成することができました。(結果的に大幅なタイムロスの低減になりました。やはり他人に聞くというのが一番ですね!)さらに医院管理の側面からは、義父 松井敏幸先生(現福岡大学医学部教授、同筑紫病院副病院長)にアドバイスを頂きながら運営管理を行っております。

まだまだ日が浅く、右往左往する毎日ですが、微力ながら地域医療に貢献できれば幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願いします。



医科・歯科スタッフと

一 医院の成長

みんなの笑顔のために

鍵山 富希 (24期生 / かぎやまデンタルクリニック(高知県香美市))

皆 様、こんにちは。24期生の鍵山富希です。福岡歯科大学総合歯科での研修後、出身である高知へ戻り、開業医で約7年間学ばせていただき、平成22年4月に香美市の実家の近くで開業いたしました。

とにかく地域の皆さんに受け入れてもらいたいという一心で、がむしゃらに患者さん第一で突き進んでまいりました。2年程して患者さんも増え始めた頃、結婚退職等が決まり、新たなスタッフを探し始めた時、初めて壁にぶつかりました。歯科医師として今まで2年間患者さんのことだけ考えてやってきましたが、院長としてスタッフの事は考えていたのだろうか。改めて彼女たちを観たときに、笑顔の中にも疲労感いっぱいの方に気づきました。これまでは、たまたまオーブンニングスタッフに恵まれて、文句一つも言わずついてきてくれた彼女達の上に築き上げられたものでした。

それに気づいてから、諸先輩方のアドバイス



またご協力をもとに医院改革を始めました。予約時間の徹底、仕事の簡略化、新しく便利な機械の導入 etc. そのうちにスタッフも見つかり、やっと今、少しずつクリニックも落ち着きつつあります。

これから先5年、10年と経ていく中で、スタッフが楽しく充実した仕事をできなければ患者さんを癒すことなどできません。それに気づかせてもらえた今、ただただ日々の仕事に追われるのではなく、時間を少し割いても他の医院のスタッフとの交流、社員旅行、勉強会をすることによってスタッフの気持ちの充実を図り、そこから地域の皆さんへ今以上の貢献ができればと思っております。

そして何より私自身がスキルアップも含め、院長としてこれからの成長も続けていかなければと思っております。



FROM STUDENTS

学生からのメッセージ



第39回学園祭を終えて

藤川 夏恵 (大学4年)

今年度、学祭実行委員長を務めさせていただきました4年生の藤川夏恵と申します。私は福岡歯科大学に入学して、初めての学園祭の時から今まで4年間実行委員として学園祭に関らせていただきましたが、1年生の頃の学園祭に対する思いと4年生になってからの学園祭に対する思いは大きく変わっていったような気がします。

今回初めて実行委員長という学園祭をまとめる役を務めさせていただきました。その大役を通して学園祭について改めて感じたのは、①歯科大学と地域の方々とのつながりが深いこと、②地域の方々が田の歯科祭を毎回楽しみにしてくださっていること、③実行委員のチームワークが大事だということでした。

今年は、なるべく早めに企画ごとの流れを進めて、夏休み終了後すぐから活動を始めました。実行委員の4年生は長い間、この実行委員に関わった人が多く、とてもよく団結できていたと思います。周りのメンバーも実習やテスト勉強もある中、完全なバックアップをしてくれたおかげで、なんとか実行委員長の仕事をやりとおすことができました。少々ミスはありましたが、それは次の課題として引き継ぎ、次の代に田の歯科祭をよりよいものにしてほしいと思っています。

4年生は今年、CBTやOSCEという大きな試験を抱えています。今まで勉強してきたことを全て生かして、悔いのないように試験勉強に励んでいきたいと思っています。知識・技術のどちらも優れ、そして将来患者さんに信頼していただけるような歯科医になれるように精進いたします。



ターニングポイント

薬師寺 正道 (大学2年)

2011年当時41歳。私はまさに人生のどん底を彷徨っていました。東京から故郷福岡へ戻り大手術を経験しました。長い入院生活と辛いハビリの毎日、時代に一人取り残された気分でした。空虚感から生活は荒み、親やパートナーにはとても迷惑をかけてしまいました。そんななか次は自分が誰かを救う番だと思えるようになり、それが人生のターニングポイントとなりました。医療人を目指すことに決めました。

入学してみると自分の半分程の歳の若い同級生ができ、そして同級生の親御さんには私の中高時代の先輩もいらっしゃり、ここにこなければ出会えなかった繋がりがたくさんありました。私の学年では勉強の情報交換をすることで得意分野、不得意分野それぞれアプリを駆使して共有し合いお互い支え合って勉強しています。以前の大学時代は今程インターネットも発達していなかったの、今は便利な世の中になったと感心です。「メールボックス確認!」ではなく、昔は各々「掲示板確認!」でしたから。私は大学院まで化学工学を勉強していましたが、他にも大卒の学生は多く、みなさんとても勉強熱心で良い刺激になっています。ここに来たことは幸運だったのだと日々感じていますし、私にとってはすべてこれらが将来への学習意欲にもなっています。

患者目線もダメ人間目線も持ち合わせ、多少は人生の酸いも甘いも知り、多くの方々に助けられてここまで来ることができた今だからこそ、何かできることがあるのではないかと感じています。この福岡歯科大学を介してそれができるのなら、それこそ私の本望です。



FROM PARENTS

保護者様からのメッセージ

親の背中

私は子どもの頃から、父が歯科医師として一生懸命治療する姿を見て、体力、精神力のいる職業だなと思い、学生時代はテニス部に入っていました。部活の良いところは、先輩後輩の人間関係を築くことができ、幹部学年を経験することで組織をまとめる力とそれを維持するためのマネジメント力を身に付けることができることだと考えています。

歯科大学にきている以上、将来は歯科医療に携わる仕事に就くわけですから、大学に残って研究者の道を選ぶもよし、開業して地域の歯科医療を支えるもよし、いずれにしても、社会、組織、そして家庭のどれもうまくやらないといけないと思います。

平均寿命が約80年としますと、私はもう61年を使い果たしていますので、あと約20年程しか残されていません。人生の起承転結でいえば、転と結の境目あたりでしょうか。毎日の診療の傍ら、週3回のテニスと月1回の磯釣りを楽しんでいます。皆さんはおそらく20歳前後でしょうから、起の終わりあたりでしょうか。

今の日本は資格社会です。歯科医師として社会に出るには、とにかく歯科医師国家試験に合格しないと、起から承に進むことができないのです。前に進むために今何をすべきか、ご自分でよく考えてください。それができる能力と体力は皆さん方にはあるはずです。



新田 君治 様
(父兄後援会評議員)

進化

中学入学時、父が私に与えてくれたのは英文タイプライターとその教科書でした。英語を習い始めたばかりの私は、教科書の中の英単語を打って遊んでいました。英文タイプライターの鍵盤は今のコンピューターのキーボードとほぼ同じ並びであったので、パソコンには早く慣れることができ、英文タイプライターを買い与えてくれた父に感謝しています。

私は福岡歯科大学の5期生ですが、当時授業のノートはすべて手書きでした。成績の悪い私でしたが、よく同級生からノートのコピーをもらって勉強したものです。

大学を卒業後、当時パソコンを研究室に導入したばかりの第二口腔外科に入局し、古本克磨先生、本田武司先生のご指導のもとで学びました。それでも学会発表資料の提出は手書き、または和文タイプライターが主流で、パソコンの使用はまだ許可されておらず、パソコンの使用法を知っている人はわずかでした。学会発表ではスライドを作成し、使用する順番にファイリングしてから学会に持ち込んでいましたが、荷物にもなり、もし順序を間違っていたら修正するのが大変でした。しかし、今では誰もが当たり前のようにパソコンで資料を作成し、データさえあれば発表が出来ます。大学に入学する学生がパソコンを持っているのは当たり前で、更にipadのような軽量で多くの機能を持った機器もあり、学生達がそれらを活用して学ぶことができるような環境も整っています。自分にはこの世界の進化が速すぎて、変化に慣れていくのが大変です。

そしてパソコンよりも、もう一つ更に進化したのは、言うまでもなく「スマホ」でしょう!スマホは機能が多くて、簡単に使えそうですが、理解できない私は子供達から教えてもらっています。

歯学分野もコンピューター等と同じで進化しているので、学生諸君も使える技術や環境を有効活用し、勉学に励んでいただきたいと思います。



林 昇文 様
(父兄後援会評議員)

平成26年度 入学試験日程

福岡歯科大学

口腔歯学部					
区分	一般入試A日程	センター試験利用入試Ⅰ期	一般入試B日程	センター試験利用入試Ⅱ期	AO入試Ⅱ期
募集人員	約45名	約4名	約10名	約2名	若干名
願書受付期間	H26.1.6(月)～1.31(金)		H26.1.20(月)～2.20(木)		H26.2.24(月)～3.13(木)
試験日	H26.2.2(日)		H26.2.21(金)		H26.3.14(金)
合格発表日	H26.2.5(水)午後5時		H26.2.24(月)午後5時		H26.3.17(月)
試験会場	福岡歯科大学試験場及び東京試験場			福岡歯科大学試験場	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427(直通) ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話およびスマートフォン用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/deviceselect.html				 携帯電話からのアクセスはこちらから!

福岡医療短期大学

歯科衛生学科					専攻科・口腔保健衛生学専攻	
区分	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	
募集人員	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	二次募集 約5名
願書受付期間	H26.1.6(月)～29(水)	H26.2.3(月)～12(水)	H26.2.17(月)～3.5(水)	H26.3.10(月)～24(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H26.1.6(月)～29(水)
試験日	H26.2.1(土)	H26.2.14(金)	H26.3.7(金)	H26.3.26(水)		H26.3.10(月)～24(月)
合格発表日	H26.2.6(木)	H26.2.20(木)	H26.3.12(水)	H26.3.27(木)		H26.3.26(水)
試験会場	福岡医療短期大学				福岡医療短期大学	

保健福祉学科					
区分	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)
募集人員	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H26.1.6(月)～29(水)	H26.2.3(月)～12(水)	H26.2.17(月)～3.5(水)	H26.3.10(月)～24(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	H26.2.1(土)	H26.2.14(金)	H26.3.7(金)	H26.3.26(水)	
合格発表日	H26.2.6(木)	H26.2.20(木)	H26.3.12(水)	H26.3.27(木)	
試験会場	福岡医療短期大学				

問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp				 携帯電話からのアクセスはこちらから!
------	--	--	--	--	--

本学学生の作品が地下鉄駅に

健康づくりのために歩くことを勧めるポスターを、福岡市交通局からの依頼により、本学DTP部の学生3名がデザインしました。現在、福岡市営地下鉄七隈線野芥駅と次郎丸駅各ホームに掲示されています。掲示は2月上旬までの予定です。



口腔歯学部5年 廣島屋 貴俊さん



口腔歯学部3年 西原 有紀さん



口腔歯学部1年 蓮田 賀子さん

編集後記

本号から新連載のコラム「水の如し」はいかがでしたか?水の如くしなやかな思索を今後ご期待ください。また、表紙の水彩画は福岡市早良区在住の吉田彦彦氏に描いていただきました。写真とはまた違った趣向で大学の冬景色をお伝えできたのではと思っています。いろいろな方のご協力のもと、ニュースだけでなく大学の「空気」をも皆様にお伝えできればと考えています。(NT)

キャンパス歳時記

恒例の餅つき開催

12月27日、本館玄関ホールにおいて、毎年恒例となっている餅つきを開催しました。役員・教職員他200名以上が参加し、つきたての餅をぜんざいやおろし大根、あん餅で味わい、準備していたもち米20Kg分の餅、豚汁などに舌鼓を打ちながら親睦を深めました。

